

地域のさらなる発展と 自然環境との共生をめざして

— 豊田・岡崎地区研究施設用地開発事業 —

平成22年5月16日

愛知県企業庁

1

これまでの主な経緯

平成18年3月	地元検討委員会が発足
9月	地元代表がトヨタ自動車へ立地の検討を要請するとともに、豊田市・岡崎市へ協力を要請
12月	トヨタ自動車による土地利用構想の検討
平成19年2月	トヨタ自動車・豊田市・岡崎市から、愛知県へ開発要請 平成19年度愛知県予算の発表【開発実施の公表】
7月	環境影響評価方法書の公告・縦覧、土地利用構想の公表
9月	現地調査に着手
平成20年8月	用地交渉の開始
9月	土地利用構想の見直し公表
平成21年4月	自然環境保全技術検討会の設置
9月	ミゾゴイと猛禽類の営巣状況の公表
10月	トヨタ自動車が「新研究開発施設のあらまし」を公表
12月	豊田・岡崎地区研究施設用地開発事業に係る説明会開催

3

事業の目的と本県の期待

<目的>

本県の基幹産業であり極めて重要な役割を担う自動車産業の研究開発施設用地を造成することにより、モノづくりの技術革新を支える研究開発機能の集積を促進し、本県の産業振興と地域の活性化につなげるもの

<本県の期待>

将来を見据えた産業基盤の整備

産業のグローバルな競争が激化している中で、地域経済や県民生活を支える自動車産業の国際競争力を維持し発展していくための重要な研究開発施設

研究開発施設の立地による地域の活性化

高齢化や後継者不足による里山の荒廃や農林業の衰退が進む事業区域周辺において、地域と企業の協働による里山の活性化や施設の立地による雇用の創出

2

事業区域の位置



道路

・東海環状自動車道
「豊田松平IC」から東へ約12km

鉄道

・名鉄「豊田市駅」から東へ約17km
・名鉄「東岡崎駅」から北東へ約15km

4

事業の概要

事業区域 : 豊田市(旧下山村)及び岡崎市(旧額田町)
の一部

事業面積 : 約660ha

施設内容 : 研究開発棟、実験棟、テストコースなど

人員計画 : 施設全体供用時に約4,000人

事業主体 : 愛知県企業庁(造成工事)

トヨタ自動車㈱(施設建設工事)

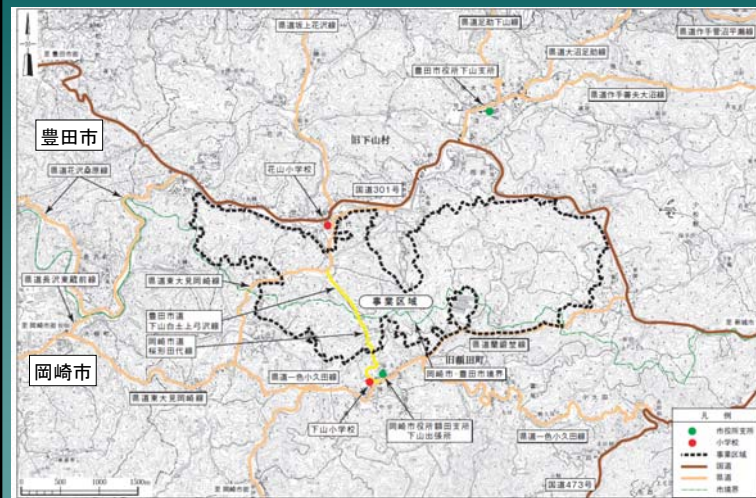
5

事業区域とその周辺の状況(2)



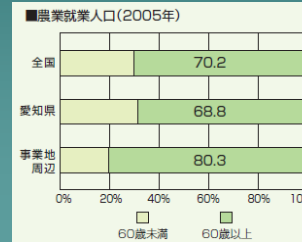
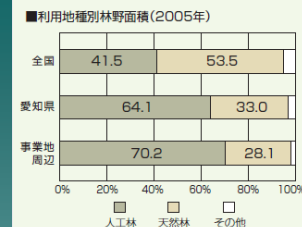
7

事業区域とその周辺の状況(1)



6

地域の農林業の状況



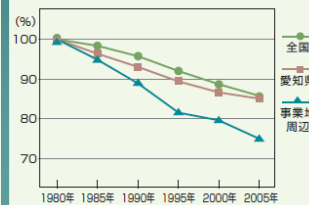
林業

- 事業地周辺の森林の約7割が人工林
- 間伐遅れの人工林が多い

農業

- 最近25年間で耕地面積が約25%減少
- 農業就業人口の約8割が60歳以上

■耕地面積の推移(1980~2005年)



(出所)愛知県農林水産統計年報(愛知県農林統計協会)をもとに作成。 ※事業地周辺データは、旧下山村と旧額田町のデータの合算値。

8

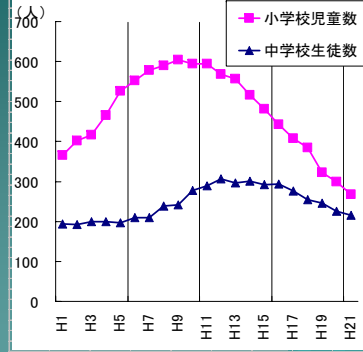
下山地区の人口等の状況

人口推移

年	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)
人口	4,556	5,334	5,350	5,237

(出所) 国勢調査をもとに作成
旧下山村の人口数

児童・生徒数の推移



(出所) 学校基本調査をもとに作成
旧下山村内の小中学校の児童・生徒数

環境影響評価方法書 (公告・縦覧:平成19年7月)

環境影響評価の「実施項目」や「調査、予測及び評価の手法」を取りまとめたもの



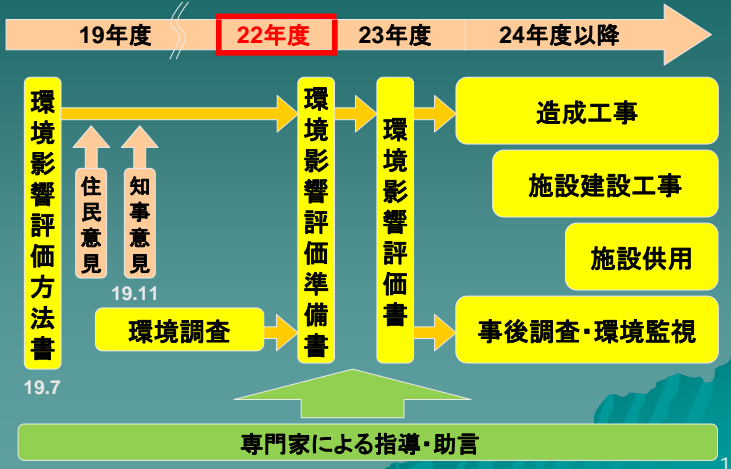
5. 環境影響評価の項目

環境影響の区分	影響要因の区分	工事の環境		土地又は工作物の利用及び取組		
		建設工事	維持管理工事	建設工事	維持管理工事	
環境の自然・景観・歴史・文化等の特性の保持を要する事項	大気質	窒素酸化物	○	○	○	
		浮遊粒子状物質	○	○	○	
		騒音	○	○	○	
		振動	○	○	○	
環境の自然・景観・歴史・文化等の特性の保持を要する事項	水質	水質イオン濃度	○	○	○	
		水の汚れ(生物化学的酸素消費量)	○	○	○	
		水の濁り(浮遊物質)	○	○	○	
		富栄養化	○	○	○	
環境の自然・景観・歴史・文化等の特性の保持を要する事項	地形及び地質	重要な地形及び地質	○	○	○	
		地層(地盤以下)	○	○	○	
		土壌汚染	○	○	○	
		地下水の状況及び地下水質	○	○	○	
環境の自然・景観・歴史・文化等の特性の保持を要する事項	動物	重要な種及び注目すべき生息地	○	○	○	
		植物	重要な種及び群落	○	○	○
		生態系	地域を特徴付ける生態系	○	○	○
		景観	景観資源及び重要な眺望点並びに主要な眺望経路	○	○	○
環境の自然・景観・歴史・文化等の特性の保持を要する事項	人と自然との関わり	人と自然との関わり(主要な人と自然との関わり)	○	○	○	
		人と自然との関わり(主要な人と自然との関わり)	○	○	○	
		歴史的・文化的・景観的価値を有する場所	○	○	○	
		環境の歴史的・文化的・景観的価値を有する場所	○	○	○	
環境の自然・景観・歴史・文化等の特性の保持を要する事項	環境への負荷	陸上及びその他の建設工事に伴う副産物	○	○	○	
		副産物	○	○	○	
		副産物	○	○	○	
		副産物が土壌	○	○	○	

注) ○は環境影響評価の対象として設定した項目を示します。

環境影響評価手続きなど事業スケジュール(予定)

一きめ細かな自然環境調査の実施と工事中・供用後の適切な環境配慮



環境影響評価方法書に対する意見

<知事意見>-平成19年11月-

環境保全の見地からの16項目にわたる意見がありました。主な内容は次のとおりです。

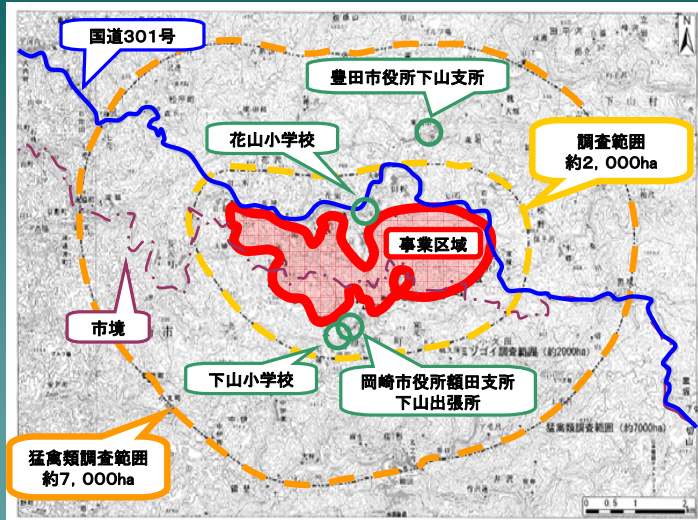
- 大規模造成事業という特性を踏まえ、環境への影響の回避、低減の観点から、できる限り現在の地形等に配慮すること。
- 用地造成及び施設建設工事と一部の施設供用時期が重なることから、適切に予測時期を設定すること。
- 動植物の調査は、専門家の助言も得て適切に実施すること。

<住民意見>

約100項目の意見がありました。主な内容は次のとおりです。

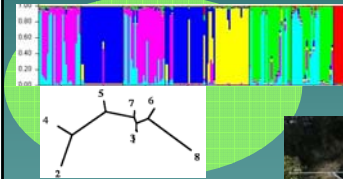
- 猛禽類は行動範囲が広いので、調査範囲を2～3キロほど広げる必要がある。
- 調査にあたっては、鳥類などの生息や繁殖に悪影響を与えないように厳重に注意するべきである。

自然環境調査の範囲



自然環境調査の内容(2)

- 遺伝的系統などを把握するための遺伝子解析
- 地域の特徴的な動物の生態を把握するための移動経路調査
- 魚類の移動状況を把握するためのICタグ調査 など



遺伝子の帰属性解析と遺伝距離を元に作成した系統樹



ICタグ調査に用いる機器



タヌキに取り付けた発信機とそれを探知するアンテナ

自然環境調査の内容(1)

調査項目		主な調査方法
動物	哺乳類	フィールドサイン調査、自動撮影、巣箱調査、バットディテクター調査、捕獲調査
	鳥類	ラインセンサス調査、ポイントセンサス調査、夜間調査、任意観察
	は虫類及び両生類	目視観察調査
	魚類	目視観察調査、採集調査
	昆虫類	一般採集調査、バイトラップ調査、ライトラップ調査
	底生生物	目視観察調査、コドラート調査
	クモ類	一般採集調査
	陸産及び淡水産貝類	一般採集調査
植物	植生	空中写真の判読、目視観察調査
	植物相	目視観察調査

自然環境調査で確認された動物種

確認された動物種数

分類	種数
哺乳類	23種
鳥類	141種
は虫類	12種
両生類	9種
魚類	18種
昆虫類	2,555種
底生生物	390種
クモ類	208種
陸産貝類	50種
淡水産貝類	20種

主な希少種 (出典:レッドデータブックあいち)

カヤネズミ
 ・低地から標高1,200m付近までの山地に分布する
 ・草本の茎葉、種子、果実、昆虫などを食べる

サシバ
 ・本州には3月下旬に渡来し、9月から10月にかけて越冬地へ渡去
 ・平地から低山帯に生息
 ・主に、カエル、ヘビ、トカゲ、昆虫類を捕食

ミゾゴイ
 ・沢のある薄暗い混交林に生息し、沢の上など下部に空間のある枝に営巣
 ・サワガニ、カエル、魚類、昆虫類を捕食

ホトケドジョウ
 ・山間地帯や山すそを流れる細流、特に上流域に湧水があり、底質が泥や砂の場所に好んで生息

猛禽類、ミゾゴイの営巣状況

<猛禽類>

種名	平成19年		平成20年		平成21年	
	事業区域内	事業区域外	事業区域内	事業区域外	事業区域内	事業区域外
サンバ	3箇所	1箇所	2箇所	11箇所	3箇所	15箇所
ハチクマ	なし	6つがい程度	1箇所	6箇所	なし	8箇所
オオタカ	なし	1箇所	なし	2箇所	なし	3箇所

※ 調査範囲は、平成19年が約2,000ha、20年・21年が約7,000haで実施しています。

<ミゾゴイ>

種名	平成21年	
	事業区域内	事業区域外
ミゾゴイ	2箇所	1箇所

※ 調査範囲は、約2,000haで実施しています。



17

自然環境調査で確認された植物種

確認された植物種数

分類	種数
シダ植物	120種
種子植物	914種

主な希少種 (出典:レッドデータブックあいち)



サンショウモ
 ・一年生の水生シダ植物
 ・平野部の水田、ハス田やその周辺の水路に生育する浮遊植物



ウンヌケモドキ
 ・多年生草本
 ・日当たりのよい草地や半裸地に生育する。
 ・やせ山の尾根すじ筋などに多いが、谷津田周辺の里草地に見られることもある。



キキョウ
 ・多年生草本
 ・花期は7～8月、花冠は青紫色で広鐘形
 ・山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育

19

今年実施するミゾゴイ調査内容

広域生息状況調査

調査時期: 4月上旬から6月上旬
 調査内容: 鳴き声調査
 調査範囲: 約10,000ha (事業区域及び周辺、飛地)

営巣確認調査

調査時期: 6月上旬から7月下旬
 調査内容: 現地踏査
 調査範囲: 約2,000ha

特定巣生態調査

調査時期: 特定巣の確認後から巣立ちまで
 調査内容: 繁殖状況、行動範囲(餌場)、食性、餌生物、営巣環境及び餌場環境

18

土地利用構想の見直し

平成19年7月(当初)



改変面積: 約410ha

<主な環境配慮の視点>

- ・周辺に残置森林を配置し、自然環境の連続性を確保
- ・水源涵養保安林に配慮

平成20年9月



改変面積: 約280ha

- ・サンバの営巣区域(森林)・餌場(谷津田)の保全
- ・現在の尾根や水系に配慮した土地利用
- ・トンネルや橋梁による地形の保全

平成21年10月



改変面積: 約270ha

- ・猛禽類を含む重要な動植物の保全
- ・橋梁の設置による動物の移動経路の確保

20

自然環境保全技術検討会の設置

(企業庁、トヨタ自動車(株)共催)

希少な動植物の保全

里山の安定的な維持管理



動物



植物



豊かな森林



多様な生物を育む谷津田

自然環境保全技術検討会(平成21年4月設置)

保全対策・維持管理手法の提言

環境影響評価への反映

21

どんぐりプロジェクト

(主催:香恋の森づくり推進協議会)



平成21年10月17日(土)

23

自然環境との共生をめざして — 開発と生物多様性の保全の両立 —

生物多様性や保水機能の低下など

里山の荒廃

企業の積極的な寄与と地域住民の参加による里山の活性化

里山の安定的な維持管理など

健全な里山・豊かな生態系の回復

地域コミュニティ・にぎわいの復活

トヨタ自動車(株)
企業庁

持続可能な開発と
生物多様性の保全のモデル

しもやま
里山協議会

他地域への波及

協働

22

炭焼き小屋製作

(協力:ぬかた炭焼きの会)



平成22年3月

24